

令和3年度第2回物部川地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和4年2月8日（火）14:00～16:00

場所：高知県香美農林合同庁舎 1階 大会議室

出席：委員17名中、12名が出席（オンライン参加5名）

議事：（1）地域アクションプランについて

1）物部川地域アクションプランの進捗状況等について

2）物部川地域アクションプランの削除・修正について

（2）産業成長戦略について

1）第4期産業振興計画における戦略の方向性と重点ポイント（案）について

2）観光振興の取り組みについて

3）移住促進の取り組みについて

議事（1）（2）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）地域アクションプランについて

1）物部川地域アクションプランの進捗状況等について

（No.22 南国市の観光農園を活用した体験型・滞在型観光の推進）

（杉村委員）

座長は食べていると思うが、西島園芸団地の新メニューのイチゴのカレーの感想を知りたい。また、これまで様々に支援をしてきているが、今後についてどう考えているか。

（平山座長）

南国市としては、重要な観光資源と位置付けて経営支援を行ってきた。現在は、地域アクションプランに組み込み、県の支援をいただきながら、観光客の増と売上向上を目指している。イチゴのバターチキンカレーについては、今まで感じたことのない独特のスパイスの香りがする。辛くないので、子どもも十分食べられるし、イチゴに独特の甘みがあり親子連れに食べていただくには非常にいいメニューだが、1日30食は少ないと思う。

1月に入り、コロナの感染者が増えてきた頃から、客足が遠のいていると聞いており、非常に厳しい状況であると認識している。現状これまで南国市の重要な資源として支援をしてきた経過もあり、今後、どのような厳しい状況になろうと支援をしていく所存。

（杉村委員）

ものづくりサポートセンターも西島園芸団地も、南国市にとって非常に有益な施設である。今後も観光ルートとして位置づけてやっていきたいので、市の方もよろしく願います。

（平山座長）

商工会、関係機関、事業所等と連携しながら、周遊も含めて考えていきたい。

(No.22 南国市の観光農園を活用した体験型・滞在型観光の推進)

(山本委員)

西島園芸団地では、現在ブーゲンビリアが満開に咲いているがPR不足だと思う。そのため、観光協会もしっかりPRしていかなければならないが、市・県もしていただきたい。

(No.26 龍河洞エリアにおける地域の活性化の推進)

(山本委員)

龍河洞については、リニューアルされ素晴らしい施設になっているので、小中学生が修学旅行などで訪れてもらえるようPRを行ってほしい。

(土居地域産業振興監)

西島園芸団地に関しては、来ていただいたお客さんにさらに喜んでもらえるようレイアウトの見直しを考えている。

龍河洞については、令和元年から県内の小中学校と四国3県に教育旅行の案内を出している。今後はさらに龍河洞保存会、龍河洞みらいに進捗状況等の確認を行い、県内外の内訳など詳細も確認する。

(No.9 物部川地域における民有林における原木の生産)

(No.11 高知県産ワインの生産拡大及びブランド化の推進)

(No.19 香美市における地域食材を活用したクラフトビールの製造・販売)

(石川委員)

3市に協力いただき、間伐は順次進んでいる。この会議のほかに物部川濁水協議会等があり大変であるが、3市に協力をいただかなければ、中山間地域の発展や山、川の荒廃が守れないのでよろしくお願ひしたい。

香南市のワインや香美市のビールに加え、3市の中には日本酒の酒蔵もあるので、昔からある日本酒のことも大事に取り組みを進めて欲しい。

(土居地域産業振興監)

検討する。

(No.10 シイラ等の水産物加工品による外商の拡大)

(中田委員)

シイラの水揚げは、ここ20年の統計で最も少なく、漁業者の収益が減少した。今後は、組合員に頼るだけでなく、組合自らが先頭に立った取り組みも重要になると思う。

(杉村委員)

シイラの不漁には何か原因があるのか。また、シイラの養殖は可能か。

(中田委員)

今年の土佐湾は、県外からマグロ船が来るほどマグロが多かった。大型魚が土佐湾を回遊するため他の魚が入りづらくなったことが一つの要因ではないか。

宮崎県で養殖の試験をしている。シイラは、魚体が大きいので大きな生簀が必要になる。

(丸岡委員)

単価の安いシイラの養殖は費用に見合わない。

2) 物部川地域アクションプランの削除・修正について

(No.22 南国市の観光農園を活用した体験型・滞在型観光の推進)

(丸岡委員)

物部川 DMO 協議会では現在ユニバーサルな地域づくりに取り組んでいる。居酒屋、レストランを含め、観光地におけるユニバーサルな施設づくりに3市から支援をしてもらいたい。また、施設によっては、車椅子が足りていないところもあり、高齢者や障害者の方々が来やすくなるような支援もしてもらいたい。

(平山座長)

支援については、3市連携の活動の中で協議していきたい。県ではユニバーサルへの対応についての観光施設向けの補助金はあるか。

(地域観光課 吉良企画監)

ユニバーサル化そのものについての補助メニューはないが、3市で連携して取り組みを進めるにあたって、観光客の周遊を促し外貨を落としてもらう仕組みを作るためのアドバイザー派遣や、広域観光を推進している組織への補助金はある。

(山本委員)

観光面から考えても、地域アクションプランに、のいち動物園を織り込んではどうか。

(土居地域産業振興監)

のいち動物公園は県立の施設であるため、地域アクションプランという位置づけには馴染まないと考えている。ただ、物部川地域の主要な観光施設の一つであるので、広域観光の地域アクションプラン等で入込客数や取り組み状況などの情報共有をしている。

(No.12 ものづくりサポートセンターを核とする中心市街地の活性化)

(杉村委員)

コロナの影響で南国市内の飲食店は大変な状況になっており、商工会が核になってやるしかないと考えている。商工会館のリノベーションを考えているが、地域アクションプランに組み入れることはできるか。

(土居地域産業振興監)

商工会館の場所は、中心市街地エリアに入っており、単独の取り組みとして考えていくのか、ものづくりサポートセンターを核にした中心市街地の中で考えていくのか、南国市及び商工会と一緒に議論していきたい。

(2) 産業成長戦略について

1) 第4期産業振興計画における戦略の方向性と重点ポイント(案)について

(寺村委員)

第4期の産業振興計画における戦略の重要ポイントに「新しいひとの流れ」を捉えた中山間地域の振興と記載されている。「新しいひとの流れ」というのは、具体的にどういう意味か。

(計画推進課 久米課長補佐)

コロナの感染拡大に伴い、観光、ワーケーション、その先の移住ということも含めて、都会から地方へという人の流れが全国的に起きている。この動きを中山間地域の振興につなげていくという意味で記載している。

(寺村委員)

観光や移住の分野だけでなく、高知県内の若い方からご高齢の方の経験を踏まえて中山間地域それぞれの強みを生かした連携テーマでのアクションプランを作っていくことができれば面白いと思う。

(計画推進課 久米課長補佐)

なるべく幅広い分野でこの事業で得た流れを取り込んでいきたい。

2) 観光振興の取り組みについて

(山本委員)

第4期の産業振興計画、観光関係の取り組みとか移住促進については、短期の取り組みになっているが、物部川地域の観光や歴史の長期的な視野に立った掘り起こしをすべきではないか。野中兼山の遺構を農業用水だけではなく産業振興や観光振興を図るという視点での取り組みが進めば、物部川地域の魅力ある観光資源の開発につながると思う。

(平山座長)

物部川流域3市やDMO協議会の中で観光資源としてどのように位置づけていくか協議できると思う。このアクションプランの中では位置づけができるか。

(土居地域産業振興監)

事業主体がどこになるかが決まらないと、行政も応援しづらい。事業主体が決まれば、地域アクションプランとしての位置づけや観光振興部の施策について協議をしていく必要がある。

3) 移住促進の取り組みについて

(近藤委員)

県の移住促進の空き家の抜本強化に期待している。加えて、3市の空き店舗確保も強化いただけると嬉しい。

(以上)